

平成18年 4月10日

ヘルパーステーションだいたう ケアレポート No6

ヘルパーステーションだいたうのケアレポートNo6をお届けします。

ステーションのヘルパーに業務別に、自己評価による介護技術の習熟度（得手不得手）の調査を行いました。ヘルパー個々の介護技術の向上のために指導を行う目的で実施しました。

（ % ）

コード	業務区分	得意	標準	不得意	無回答
身体介護	サービス準備・記録等	8.9	80.4	7.1	3.6
	排泄・食事介助	10.5	58.6	19.0	11.9
	清拭・入浴、身体整容	8.2	66.7	14.3	10.9
	体位変換、移動・移乗介助、外出介助	12.5	62.5	15.5	9.5
	起床及び就寝介助	7.1	70.2	10.7	11.9
	服薬介助	19.0	64.3	4.8	11.9
	自立生活支援のための見守りの援助	11.9	57.1	16.7	14.3
日常生活援助（家事）	サービス準備等	9.5	78.6	8.9	3.0
	掃除	33.3	61.9	4.8	0.0
	洗濯	19.0	73.8	2.4	4.8
	ベッドメイク	23.8	73.8	2.4	0.0
	衣類の整理・被服の補修	9.5	76.2	11.9	2.4
	一般的な調理、配下膳	14.3	73.8	9.5	2.4
	買い物・薬の受け取り	23.8	71.4	2.4	2.4

無回答は経験がないことを示しており、ヘルパーの1割程度が身体介護の実務を行っていません。

また、現実には「入浴介助」と一言では済まされず、ご利用者の障害の程度、風呂場や脱衣所など広さやバリアフリーの状況などで介護方法が変わってきます。おむつ交換、排泄介助、移動・移乗なども同様です。家事援助における調理、掃除などもそのお家々々によってケースバイケースです。ヘルパーはそれらの個別の状況に合わせて適切なサービスが提供できることが求められています。また、サービス提供責任者はご利用者のニーズを見極め、ヘルパーの能力を正確に把握した上で、適材適所にヘルパーを配置する能力が必要です。

この調査で、ヘルパー個々は自分の能力(自信の無い部分)と希望する研修をコメントしていますが、家事援助は調理についてのみのコメントです。身体介護は多岐にわたっており、様々です。例えばおむつ交換に関しては、

- ・ 身体状態に応じた排泄、清拭介助の方法
- ・ おむつ交換(尿漏れを防ぐためのポイント)
- ・ おむつ交換時の排便の処理の仕方
- ・ トイレへの移動介助(おむつをはずした後ベッドへ帰るまでのおむつの対応)
- ・ おむつ交換の経験が少ないので指導してほしい
- ・ 特におむつ交換etc.に不安がある(同行指導を受けたとき利用者ごとに異なっている)
- ・ おむつ交換時の陰部洗浄がきちっと出来るよう指導を受けたい
- ・ おむつ交換の経験が少ないため、スムーズに出来るような体位交換

等です。同様に、入浴介助、口腔ケア、ベッド上での洗髪、麻痺のある人への移乗介助、服薬介助、専門的配慮をもって行う調理、等々の課題が出ています。

ヘルパーには新人もいますし、経験年数は長いが実務経験が少ない等の事情を有する者もあり、ヘルパーの介護技術の習熟度は様々です。しかしながら、この後予想されるヘルパーによる重介護の時代に対応するには、介護福祉士の資格のみでは対応できず、実際の対応能力を有するヘルパーが必要で、その教育が重要であることは自明の理です。

ヘルパーの教育に関しては介護技術のみならず、接遇やコミュニケーションスキルなどご利用者に直接的に関わり、目に付きやすいものから、観察・記録・報告・相談・チームケアなどの能力向上に加えて、最近ではがんや難病を有するご利用者に対して精神的に支える力や家族へのケア、予防や自立の視点のケアなども求められています。

私どものヘルパーステーションはそれらの基礎的な技術から着実に身につけながら、さらにスキルアップするために、今後も集団研修、グループ研修、個別指導、外部研修を織り交ぜながら計画的に能力向上に努めます。ご期待ください。

ご利用者の方々やご家族、担当のケアマネジャーさん等からのご意見をお聞きしたいと存じますのでご協力のほどよろしくお願い致します。